

政 務 活 動 費 出 金 票

出 金 日	平成 31 年 2 月 7 日
項 目	1 調査研究費 ②研修費 ③広報費 ④広聴費 ⑤要請・陳情活動費 ⑥会議費 ⑦資料作成費 ⑧資料購入費 ⑨人件費 ⑩事務所費
摘 用	北方領土返還要求全国大会
金 額	18,000 円
支出内訳	黒部宇奈月温泉 ⇄ 東京
領 収 書	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: fit-content; margin: auto;"> <p style="text-align: center;">領 収 書</p> <p style="text-align: center;">Receipt 越川隆文 様</p> <p>領収年月日 2019.-2.-7</p> <p>金額 ￥18,000 (消費税等込み)</p> <p style="text-align: center;">〔クレジット扱い〕</p> <p>購入商品 JR乗車券類 JR tickets (1 枚)</p> <p>西日本旅客鉄道株式会社</p> <p>黒部宇奈月温泉駅</p> <p>黒部宇奈月F11発行 00168-01</p> <div style="float: right; border: 1px solid black; padding: 2px;"> 印 紙 税 申 告 納 付 に つ き 大 淀 済 税 務 署 承 認 </div> </div>

本紙に収まらないときは、適宜別紙を作成のこと

氏 名 越川隆文

承	会派会長印	経理責任者印
認		

政務活動費旅費計算書



会派名 越川隆文

金額 18,000 円

(1人あたり) 18,000 円)

用務	北方領土返還要求全国大会参加				
旅行先	国立劇場				
旅行期間	平成31年2月7日~平成31年2月7日(泊1日)				
種別	区間	乗車料金	急行料金	特別車料金	合計
鉄道賃	自 <u>黒部新</u> 駅 至 <u>東京</u> 駅	往復	円	円	円
	自 <u>温泉</u> 駅 至 <u>東京</u> 駅		円	円	円
	自 <u>黒部新</u> 駅 至 <u>温泉</u> 駅		円	円	円
	自 <u>温泉</u> 駅 至 <u>黒部新</u> 駅		円	円	円
	自 <u>黒部新</u> 駅 至 <u>温泉</u> 駅		円	円	円
車賃	区間	借り上げ料金	燃料費	高速料金	合計
	自 <u>黒部新</u> 至 <u>温泉</u>	円	円	円	円
宿泊料	泊分				0 円
その他(駐車料金等)	(内訳)				円
備考	おとなび首都圏往復フリーチケット				
合計	18,000 円				

旅行議員氏名 越川隆文

承認印	
会派会長	経理責任者
	

平成 31 年 4 月 17 日

調査研究、研修、要請・陳情活動費報告書

会派名 越川隆文

議員氏名 越川隆文



以下のとおり調査研究、研修、要請・陳情活動を行いましたので報告します。

実施日	31年2月7日 ~ 31年2月7日
調査研究、研修、要請・陳情活動先	北方領土返還要求全国大会
参加者	越川隆文
目的	大会に参加することによって北方領土返還運動の現状を理解し、富山県における運動の活性化に寄与する
調査研究、研修、要請・陳情活動内容	大会資料及び演説録を添付いたしますのでご参照願います。

北方領土返還要求国民運動

平成31年2月7日 国立劇場にて

18000名余の北方領土住民のうち現在存命なのは5969名

平均年齢89歳

航空機墓参の再開を目指す

平和条約締結を目指す

毎日新聞石川氏・元島民樋下田氏・根室市長石垣氏

石川 毎日新聞

2月7日は日露通好条約が締結された日

日露経済協力の進展など、本格的な交渉が始まったのではないかと。日ソ共同宣言も交渉の結果基礎ができたと考えている。

共同宣言によって日ソは戦争状態を抜けた。領土の確定がなかったので、平和条約ではなくて、共同宣言を締結することで両国関係を正常化した。歯舞色丹の返還は平和条約締結の条件として議論される状況にある。

56年の共同宣言が基礎になるとすると、歯舞色丹引き渡しが基礎になるはずである。シンガポールで森審議官が第1ラウンドを開始したが、これからが第2ラウンドとなる。

首脳の特代表による緻密な交渉が前提となる。辛抱強い作業が必要だとロシア側が言っている。

北東アジアの将来像を描くことが必要だ。

日本の安全保障、日米安保条約、これからは発想の転換が必要だと石川氏は主張する。

樋下田さん

元島民二世 曾祖父のお墓がある。なんとか崩れた墓石を直してあげたい。障害はビザなし渡航滞在時間が1時間半と言う短さ。

曾祖父の墓は推定一トンなので重機が必要。高橋さんの墓石を優先して修復することとした。セメント・砂・砂利を現地で入手。現地で作業に許される時間が3時間しかない。(渡航時間と別枠?)

現地のセルゲイさんと現地行政の女性が手伝ってくれた。

なんとかコンクリを打つことができた。立ち会っていたロシア人の女性が日露の共同作業に感動したと言っていた。セルゲイさんはその後も現地で墓石を建ててくれたという知らせがあった。

土の中からお皿が出てきたので、手渡したいということで根室で会いました。彼にとって日本人は友好的な存在であった。昔、セルゲイさんの母親が日本で治療を受けた。北方領土には全部で52の日本人墓地がある。

根室市長石垣氏

根室漁協長は大坂かなおみさんのお母さん。大坂家の先祖は北方領土住民であった。テニスの「大坂なおみさん」は北方領土住民三世になる。

北方領土返還要求国民運動

平成31年2月7日 国立劇場にて

石垣市長の祖父が根室で漁業をやっていた。

ロシア船の入港が可能になった。ビザなし交流も27年目を迎える。経済交流の4回目の交流にも参加した。

交流拠点の環境整備に汗を流したい。

今後の根室市の発展にとって四島はどのような位置付けにあるかという石川氏の質問に、ビザなし交流を継続することが現在の根室市の重要な役割であると石垣市長の回答があった。

石川氏に対して、日露の交流はどう考えているかという質問が投げかけられる。樋下田氏のお母さんもセルゲイさんのお母さんと同じ小学校に通っていたはずであると。日本人とロシア人が共存できる島にすることが新しいアプローチである。

石垣市長の質問に対して、専門の外交官ではないがと前置きした上で、共同経済活動の中に、観光という観点が今までなかった。

石川氏 実際に日本人が島に暮らしていたわけで、日本人が作り上げた島であるということを忘れてはならない。

交渉の結果を待たずにも経済活動などできることはどんどん進めて欲しい。

樋下田氏 ほとんど日本時代のものはない。残っているものを少しでも修復してあげたい。お墓など。

石垣市長 北方領土が根室市の行政区。漁業者の資源としての北方領土。北特法の改正。共同経済活動を通して平和の海とすること。これに頑張っていきたい。

コーディネイターから一言、根室に是非とも行ってあげてください。

元島民 脇さんのお話

3年間ロシア人と混住した。7歳の時に島を追われた。

4島の返還の言葉がなくなったのではないのか？

元島民二世の山下さん

択捉島の母親の出身地

70歳からロシア語を学ばれた。

63年ぶりの帰宅。

墓参りを行った。

10歳だったお母さんは今は80歳です。

続いて以下の方々のスピーチがあった。

宮腰光寛北方担当大臣

連合事務局長 相原氏

秋田県地域婦人団体吉田氏

北方領土返還要求国民運動
平成31年2月7日 国立劇場にて

日本青年団体協議会
日本青年会議所 蒲田氏
岩元氏岡山県
根室高校3年生野島龍さん
早稲田大学中野健太さん
県民会議 岡山県民会議西森さん

考察： 国後択捉を歯舞色丹2島返還の代償にしてはいけない

北方領土引揚者の方々には2島返還論に対して不信感を持たれていることがスピーチの中で読み取れた。残念ながら敗戦国日本の置かれている状況が変わらない限り領土問題の解決は困難である。共同経済事業にしても現実的ではなく、いたずらにロシアに資するだけではないか。あくまでも4島返還を旗印により国民の世論を維持高揚していくべきである。また、北海道東部の経済振興のためにも日本全国の地域との息の長い交流の歴史を重ねていくことが重要だと思う。

北方領土返還要求全国大会考察

越川隆文 <koshikawa55@gmail.com>

2019年2月10日 16:31

北方領土問題を考えるときに、その歴史と元島民の方々の気持ちを考慮することは基本中の基本であろう。その一方では、現状の世界政治経済情勢とこれからの展望をも併せて考える必要があると思う。

また、島民同士のふれあいなどの感情論とかは政治的なプロパガンダとしても有効であろうが、それは日本人には有効だが、ロシアには届かない。交渉の本質は利益である。日露両国の利害関係がどのようになっていくのか、またどのようにしたいのか、相手の状況をつぶさに見ながら、ロシアは日本に何を求めているのか、あるいはまた、何が弱みであるのかを冷静に判断しなければならない。

そして一方では、日本の弱みと強みを分析して、今後の展望に北方領土をどのような位置付けにしていくかということが重要視されるべきであろう。

法的な正当性がどこにあるかという議論は形式論であり、厳然としてるのは、日本の領土だったということと、戦争に負けてロシアに盗られたということである。議論が全く無駄だとは言わないが、無法地帯で強盗に盗られたものをどうやって取り戻すかということだ。

ロシアがなぜ平和条約を結びたいのか？それをどのように解釈しているのか。

ロシアと日本の交易の関係を見てみたい。ロシアは何と言っても資源国であること。一方の日本は資源のない国である。ロシアは近代化が遅れた影響を未だにひきづっている。社会主義革命が起こったことも影響しているだろう。とにかく中小企業の基盤が弱く、日本の直接投資が喉から手が出るほど欲しいのである。一方では、日本はロシア資源に大きな魅力を感じている。これほど両国関係が噛み合う国も少ないのである。

実際に両国の経済交流のデータを見たときに、ロシアの自由化から経済の立ち直りまでは約10年はかかったと見て、2000年を超えるところから日本からの輸出が拡大している。石油の価格が高かったこともあると思う。多くの生活関連物資や社会資本整備のために日本からの輸入が必要だった。順調に貿易額が伸びてきており、3兆円を超えたときにリーマンがきて、一挙に貿易額は激減した。その後の回復基調で、2013年には3兆5千億円まで伸びたが、石油価格の暴落でまた貿易額が減少して2016年には1兆6千億円まで落ち込んでいる。

ここから読み取れるのは、ロシア産業がいかに資源エネルギー産業に偏っているかということである。ロシアは日本の直接投資でこの産業構造を変革したくて仕方がないのである。

ところがここに安全保障上の問題が両国にのしかかってきている。アメリカの金融資本はロシアを資本主義経済に組み込みこみたいと考えている。一方でロシアは、自国のヘゲモニーをコントロールされることを嫌い、両国の派遣闘争はソ連時代と何ら変わっていないのである。北方領土の持つ軍事的な拠点の重要性はロシアにとって欠くべからざるものなのである。

上記のような状況を考慮すると、日本が安全保障上の約束を契約上ではなく、実際に実行することによってロシアを納得させる以外にないということだ。そしてそこから得られる果実は史上最大のものとなるし、ひとえに北方領土からだけの果実ではなく、環日本海貿易全体の利益を共有することができるということだ。